

きよしの紙面



植物最速1日で4倍成長

高知大 ミナミアオノリで発見

高知新聞

聞 (夕刊)

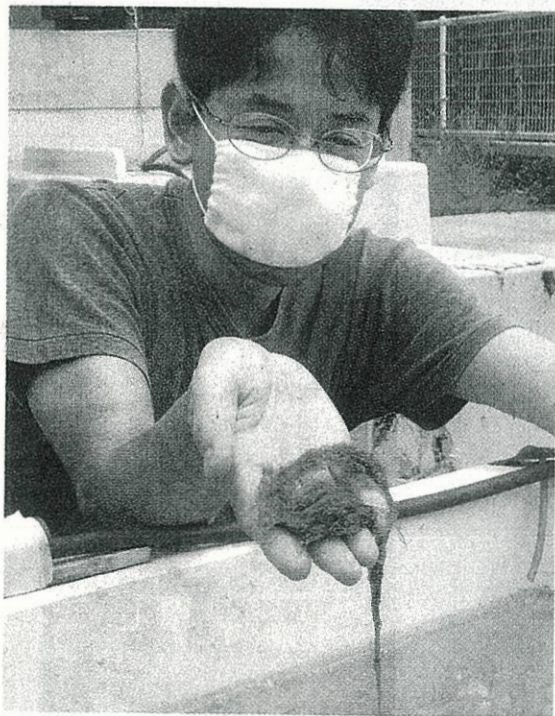
2020年(令和2年)8月12日(水曜日) 社会2 ☆ (6)

高知大の平岡雅規准教授らの研究チームは12日までに、県内でも繁殖しているミナミアオノリという海藻が1日に重量を最大4倍に増やし、一般的な植物で最も成長速度が速いことを発見した。生産効率の高いバイオマス(生物資源)として、栄養食品や植物繊維への活用が期待されるという。この成果は英科学誌「サイエンティフィック・リポーツ」に掲載された。

(宮崎順一)

1日で重量4倍 「植物最速」成長

県内でも繁殖「ミナミアオノリ」



高知大チーム発見バイオマス活用期待

ミナミアオノリは、四万十川などで採れるスジアオノリと同じアオサ属の海藻で、沖縄を中心に九州や四国の汽水域に分布。平岡准教授らが約20

年前に徳島県の吉野川河口で発見し、2011年にお茶の水大学が新種として発表した。研究チームは5年前からミナミアオノリの成長速度を研究。水温30度、塩分濃度3・0%の環境で育てたところ、1日に4倍、2日で16倍、3日で84倍と爆発的なスピードで重量が増えることを突き止めた。

千分の5〜10ほどだったミナミアオノリの胞子が、1カ月半で20倍ほどに育つ。平岡准教授は「植物最速といわれる竹の成長は1日に90%。単純比較は難しいが、ミナミアオノリはさらに速い」としている。

さらに、光合成による二酸化炭素の吸収率も高い。ミナミアオノリは自身の質量と同じ程度の二酸化炭素を取り込んでいる計算になるという。高知大ではほかの教授らがミナミアオノリをバイオマスとして利用する研究を進めており、食品や薬、栄養食品、植物繊維への活用も期待される。

平岡准教授は「生産効率の高さから資源の低コスト化ができる。高知大の研究がさらに進めば、人がばらまいた二酸化炭素を吸収したミナミアオノリで新しい物を作る資源循環社会ができる」と期待を込めている。

①生育開始から1カ月半後のミナミアオノリ。約20倍に成長した②胞子から1カ月生育し、1倍ほどになったミナミアオノリ(写真はいずれも土佐市宇佐町井尻の高知大海洋生物研究教育施設)

